

# 別府港湾・空港整備事務所通信

## 海の安心・安全を守る 海保・税関・海岸管理者 を招いた現場見学の実施 ～ 大分港海岸（みなとの匠） ～

大分港海岸では、南海トラフ地震・津波や台風による高潮に備えるための海岸保全施設を整備しており、平成31年4月より大分港湾合同庁舎内に大分港海岸分室を開室しています。庁舎内には他官庁が入所しており、今回、仕事の紹介と職員相互のコミュニケーションを図る目的として、同じ庁舎の「大分海上保安部」・「大分税関支署」と海岸を管理する「大分県」の3者（22名）を招き、令和3年2月10日（水）に現場の見学会（みなとの匠：若手職員による事業概要等の説明）を開催しました。



## ハット形鋼矢板※の吊込み

税関：あの矢板はどれくらいの長さですか。

吊り上げている短尺矢板14mとなります。長尺矢板は30m程度となるため、打設途中で2枚目を溶接で継ぎます。

大分県：1日の施工はどのくらい進むのですか。

海保：この矢板はどこで製造していますか。

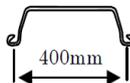
1日10~12枚圧入しているので約10m進みます。鋼矢板は大阪で製作し、北九州まで海上輸送します。それから陸送で大分へ搬入しています。

### ※ハット形鋼矢板

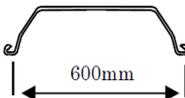
有効幅900mmの大断面の採用により、施工枚数を抑えることができるうえ、剛性が高いことから従来のU形鋼矢板に比べ長尺施工が可能。

#### U形鋼矢板

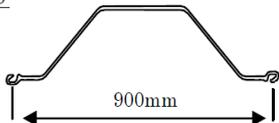
400幅



広幅型(600幅)



#### ハット形鋼矢板900



## 感想

今回の「みなとの匠」は、コロナ禍ということもあり事前の検温や消毒、マスクの着用、バスの配席などバッチリと対策をした上で臨みました。今回は若手の方や女性も参加していただき、幅広い方に、概要説明をすることができました。概要説明をする中で、メモを取っている人がいたり、真剣に聞いてくれているのを見てうれしく思いました。

現場では多くの質問が飛び交い、とても充実した「みなとの匠」になったと思います。普段同じ庁舎に入っている「大分海上保安部」や「大分税関支所」方も九州地方整備局が現在どのようなことを行っているのかを知ってもらえて良い機会になったと思います。